コミュニティ・スクール情報

2023．2．22

日時：令和５年２月２２日（水）
時間：１８：３０～２０：３０
場所：子育て支援施設「テオトル」

《　次　第　》

分科会　　１８：３０～１９：３０
横山っ子ネットワーク協議会　ホワイエ
おらほの学校づくり協議会　ホール
こうふく押しきりっ子協議会　ステージ
三川中学校学校運営協議会　第１会議室
１．協議会長あいさつ
２．学校運営の反省と次年度の構想
３．質疑
全体会　　１９：４０～２０：３０
４．説明　　「休日部活動の地域移行」の方向性
５．御礼　　鈴木孝純教育長
６．連絡　　次年度の協議会について

《　議事録　》

【　横山っ子ネットワーク協議会　】

◇学校運営の反省と次年度の構想について　（　渋谷　譲　校長　）

（近況）

・１月に予定していた自然体験（スキー教室）１，２年生の金峰雪遊びも強風によりできなかった。３，４年生のスケート教室は実施することができた。
・「６年生を送る会」が集会形式で実施できた。改めて、成長を感じることができた。
・家族の新型コロナ感染で休んでいる子はいる。鶴岡市内でインフルエンザの流行の兆しがあり注視している。
・卒業式については、来賓の出席を遠慮し、３～５年生と卒業生、保護者２名までの参列で実施予定にしている。マスクについては検討しているところである。

○学校目標に関わる取り組みでは、今年度、公開発表ということもあり、教職員が目指す方向をそろえて取り組みを進めることができたことが成果につながった。また、教職員の働き方改革についても、活動の削減（大変だからやめる）ではなく、教職員の健康を守ると同時に、職業としての「生きがい」を感じながら、自分たちの取り組みが効果的に子どもに返っていくということを大切に考えている。

○学校目標のめざす子ども像や子どもの姿などたくさんあるので、よりシンプルなものにし、子どもに伝わりやすくしていきたいと改善を話し合ってきた。

○重点目標や重点的な取り組みの成果や課題は、児童や保護者のアンケートをもとに評価し、次年度にむけて改善していきたい。

（こどものアンケート結果から）

○「よくからだをきたえる子」については、コロナ禍であっても体を鍛えたり、一生懸命働くことができた（清掃や縦割り活動）とする成果がみられる。子どもたちの頑張りが感じられる。子どもの評価では、ゲームなどの約束を守って体のことに気をつけているようだ。また、地域

におけるルール（自転車乗り）なども守って安全に生活しているようだ。
○「こころやさしい子」に関わっては、子ども同士のあいさつや感謝の気持ちなど高い評価となっている。ボランティア活動への意識も高まってきている。
○「やりとげるためにがんばる子」に関わっては、自分たちで学校をよくするという気持ちで生活しているようだ。自己指導力や自己肯定感、自己有用感など、縦割り活動を通して満足感を得てきているので継続していきたい。
○「学びにはげむ子」については、話しをしっかり聞くことができたが、進んで発言や発表をするところが課題としてあげられた。子どもたちの学びとはどういうものかを再度確認をしながらすすめていきたい。
（保護者アンケート結果から）
○新型コロナの影響か、外遊びの減少や生活リズムにかかわる数値が低くなってきていることは気になるところである。
○好き嫌いなく食事を摂っている。あいさつや感謝の気持ちをことばにするなどは、まだ、親として伸びしろがあると評価している。
○縦割り活動や友だちとの遊びでの関わり方、ボランティア活動、安全に配慮した生活のしかたについては高い評価になっている。
○学習にかかわり、自分から難しいことへの挑戦姿勢についての数値があがってきていることは評価したい。地域等でのリーダーシップについては数値が落ちているが、学校での様子を見ていると心配していない。話しの聞き方についても数値が上がりつつある。

・横山上公民館近くの側溝に自転車で落ちたという事故が続き、教育委員会に対策をお願いしたところグレーチングの蓋がついた。他にも横断歩道やスクールバス等の要望など学校を通した要望はしている。
・わかる授業をめざして、職員の自己研鑽や相談しながらさらにすすめていく。
・子どもに寄り添いながら、複数またはチームで指導支援にあたってきた。
・校務分掌の話し合いは、定期的にねらいを明確にしながら、効果的な取り組みをめざして行ってきた。
・ＩＣＴの活用についても、活動の幅が広がり、試行錯誤しながら様々な取り組みを行ってきた。
・特色ある教育にかかわり、地域コーディネーターの協力で地域の方の協力を得て実施してきた。
（次年度に向けて）
・めあてを明確にした教育課程の見つめ直し。
・児童に身につけさせたい資質や能力を明確にした授業づくりとして、学びを取り入れる力、自分の考えを持ちより良いものに変えていこうとする力、素直な気持ちでより良く学ぼうとする力の育成をめざし取り組んでいきたい。

・児童が主体的となって取り組む活動、協力していく活動を創る。
・児童の疲労やふり返りを考慮し、行事開催の曜日や時間帯の変更をめざしている。
・希望面談から随時面談に変更。
・授業時数の確保、学期ごとまとめのテストもあり月例テストを廃止。
・生活文や個人情報が多い学校文集を廃止し、書く力を重視した単元を構成し学んだことをしっかり綴る。
・教科の横断的指導に挑戦する。
・オンラインでの学習などＩＣＴ活用の推進をすすめる。
・地域と学校の先生をつなぐ会の検討。

（委員の方からの質問や意見）

〇新型コロナウイルスへの対応が変わることで学校の対応等はどうなるのか。かなりゆるくなることへの心配もある。

⇒今度５類への変更になるようだが、学校としては感染症としての対応として、これまでの対応策である、手洗いの励行やマスク着用などの対策を中心にとっていくことになるだろう。

〇卒業式で、マスクをとることなどが報じられている。今後、どうしていくか示されると思いますが、現時点での校長先生のお考えを聞きたい。３月から、マスク着用は個人の判断に任されるが、家庭に委ねるのではなく、ある程度、学校の方針でお願いしたい。

⇒基本的には国の方針が示され県の方針が示されると思います。学校に委ねられるとしても、学校独自で判断するのではなく、周囲の状況を共有しながら方針を伝えていければと思っている。

〇生活のふり返りの面で、働くとかお手伝いなどのアンケート項目があるが、家でどんな手伝いをしているかなどの調査はしていないのか。保護者のアンケートにどのような手伝いをどの程度させているかなどがわかるといいと感じる。本来、大人がやるべきことを子どもに押しつけていないかという点でも気になる。

〇先生が元気でなければ子どもたちも元気になれない。働き改革については多いに評価したい。

〇収穫感謝祭について、餅つき体験は経験させたい気持ちはある。コロナ禍で途絶えた行事を再開することへの労力についても理解できる。

⇒アンケートにより、餅の配布という意見が多くあったので方向性をだしたが、田植えから始まり、成長を見届けながら収穫し食すという過程に重きをおいていきたい。

〇登下校の見守りを行ってきて、あいさつを子どもからすすんで交わしてくれたり、横断を譲ってくれた車に会釈で感謝を伝えたり気持ちが育っていると感じている。

【　おらほの学校づくり協議会　】　（　海藤　陽子　校長　）

◇学校運営の反省と次年度の構想について

・学校目標の「思い描く学校を共に創り上げる子」について、今年度、夢を持って挑戦する子が育つ学校づくり、違いを乗り超えて協働する子が育つ学校づくり、児童主体の授業創りと学校創り、地域に貢献する学校創りの４つの重点を掲げて取り組んできた。

（学校評価アンケート保護者結果から）

〇保護者アンケートの結果から見ると学校運営に関わる項目については概ね良好な評価をいただきありがたかった。家庭での子どもの評価については、学校運営の項目より数値が低くなっている項目が見られ、保護者の方の希望や期待の高さと感じる。

〇学校運営に関わる項目の中で、やや数値が劣る「学校職員は、連絡や相談がしやすく、対応も適切である。」や「学校は、子どもたちのトラブルや問題に対して、迅速・適切に対応している。」について、学校と家庭の信頼に関わることであり、より一層努力し改善していきたい。

〇家庭での子どもの評価で「地域の行事や活動に進んで参加している。」や「お子さんとコミュニケーションをとっている。」について高い数値となっているので安心しているが、数値が低かった家庭での手伝いやゲーム、インターネットに関する約束、進んで読書に取り組むことについては、次年度、ＰＴＡと協力しながら取り組んでいきたい。ゲームやインターネットに関わる項目は、子どもの評価とのギャップもあり、子どもたちとも話し合っていきたい。

（児童評価アンケートの結果から）

〇高い数値を示した項目の中で、「主体的に学習にとりくみましたか。」（９９％）は学校目標との絡みもあり嬉しい結果だった。他にも、コロナ対策をしっかりできたこと、やくそくやルールを守ることができたで高い数値がみられ、子どもたちも意識して頑張ってくれた。

〇「自ら学校を創る」ことの意識化は、もっと具体的なイメージを子どもにもたせられなかったと反省している。児童会活動などを通し学校をよくしているのだという気持ちに立たせてあげたい。

〇家庭生活に関わる項目では、地域との関わりや家の人とのコミュニケーションで保護者の評価と一致した高い数値が見られる。手伝いや好き嫌いない食事習慣面も保護者評価と一致してやや数値が下がっている。

（教職員の評価から）

・答えを提示するのではなく、子どもに考えさせて自己決定させる場をもつ授業を創ろうという雰囲気ができあがった。
・「まるごと１５ディ」や委員会企画など、自分たちで企画運営し、タブレットで提案書を作成し提示するなど主体的に活動ができた。（高学年）
・持久走や縄跳び検定など、運動面を中心にめあてに向かって真剣に頑張る姿が見られた。
・子どもの声を元に作った、東郷の実態に合わせた防災訓練は、児童自身の内容としてとらえやすくよかったので、次年度も継続していきたい。
・協働的な学習の課題として、前提となるスキルが不足している。「相手を大切にする意識」「学習集団の一人としての自分という意識」が大切、「声が小さい」「意見があるのに言えない」などのスキルで、訓練をしながら高めていきたい。
・楽しいことを企画したりすることには主体的にできたが、日常的なあいさつをよくしようなどの取り組みへの意識や意欲は減少傾向にあり効果として表れにくかった。
・縦割り活動で、高学年はリーダーシップを発揮しようと頑張るが、下の学年に指示待ちの傾向も見られた。下学年のレベルアップに向けた支援をしていきたい。
・地域講師でたくさんの方に協力をいただいた。十分に感謝の意が伝えられたかは反省事項。

（令和５年度に向けて）

・学校目標の具現化に向けてより一層頑張っていこうと確認している。令和５年度のスタートにあたっては、職員間の話し合いをもって共通理解し指導にあたっていきたい。
・「共に」の面で、児童が安心して取り組めるよう、出過ぎない指導と支援のバランスをとっていきたい。
・「相手を大切にした聞き方と話し方」相手を尊重したスキルを育てたい。
・低学年の主体的な学習、活動を大切にしていきたい。
・地域に貢献する活動に一層取り組んでいきたい。

（近況）

・書き初めを行った。大変、静かな中で集中して取り組んでいた。書道展への出品もあった。
・伝統の「凧づくり」を行った。今年、保護者の参加を募ったところ数名来てくれてよかった。凧あげ当日は風が弱かったが、高く上がった子もいた。
・６年生を送る会を５年生の企画で行い、これまで学校を引っ張ってきた６年生に感謝をつたえた。
・児童会主催のバスケット大会を実施した。１年生もボンボンを持って応援した。
・５年生が、今年度収穫した米を、庄内空港利用者に配布した。２合ずつ「東郷ライス」としてプレゼントした。保健所に相談して実施。二次元コードをつけたアンケートも実施。

（委員の方からの質問や意見）

〇学校評価の児童アンケートは１年生から全校なのか。保護者アンケートの実施方法は？

⇒全校対象。低学年には言葉をやさしくして記入させている。保護者アンケートは、紙ベースに二次元コードをつけて実施。３～４件両方でくれた方がいた。子どものアンケートは学校で行った。

〇「思い描く学校を共に創る」という大変難しい目標を掲げているのだが、学校を創る前に自分をつくることが大切だと考えたい。
〇「学校運営」と「学校経営」。学校経営に抵抗を感じる。
〇「凧づくり」など、地域とともにした経験は心に残るものであり、よい体験をしてくれていると感じている。
〇学校でお世話になった地域の方へ感謝の気持ちが伝わっているかという話しがあったが、学校行事の相撲大会で化粧まわしの伝統をつないでいること、凧づくりを行っていること、新しく庄内空港で自分たちの収穫した米をプレゼントしたということが、広くいえば地域に感謝を伝えていることと考える。
⇒３年生も、自分たちが調査したことを町ＨＰに載せられないか交渉している。
〇学校評価アンケートの結果で、「思い描く学校を共に創り上げる子」の項目はもっと数値が低くてもむしろよい。奥深い内容なので、１年目で高評価ではあるが、本当に理解しているのか心配にもなる。主体的に学習に取り組む児童の高評価は、結果をよしとして次にどのように発展させていけるかが問われる。好き嫌いの項目ははたして現実的か。「好き嫌いをしない」半世紀もかわらず指導している。ゲームについての約束や時間についても現実的な対応を求めてほしい。
〇GIGA スクール構想を受けて教職員の働き方改革への影響は？
　成績判定や指導要録等の作業が電子化になったことから職員の負担が減り歓迎している。

【　こうふく押切っ子協議会　】
◇学校運営の反省と次年度の構想について　（　鈴木　康喜　校長　）
（近況）
・新型コロナウイルス感染症で休んでいる児童はいない。ただ、鶴岡市内でインフルエンザがはやり始めているとのことで注意している。
・学童への下校が課題としてあげられてきたが、先日、学童の施設長さんがみえられて、１，２年生の低学年を体育館ミーティングルームで受け入れてくれるようになった。
・６年生を送る会が開かれ、５年生を中心に盛り上げてくれた。
・卒業式は、来賓の出席を遠慮していただいての開催となる。
（学校運営の反省と評価）
・魅力ある学校づくりとして「学ぶ喜びを実感できる授業づくり」「縦割り活動による絆づくり」「居場所づくり」を意識して取り組んできた。アンケートでも安定して高評価である。
・来年度は、公開研究会もあることから「生徒指導の三機能を意識した学びづくり」に力を入れたい。※生徒指導の三機能＝「自己決定の場を与える」｛自己存在感を与える｝「共感的な人間関係の育成」
・子どもの小さな変化に全職員で共通理解を図り指導にあたった。いじめの不登校のない「楽しい学校」にしたい。
・「学びあう授業」を日常的に実践するため、学校研究を中核に「主体的に子どもが学び合える授業のコーディネート」について職員間で話し合いを深め授業改善に取り組んできた。また、自己有用感や自己肯定感を高める「魅力ある学校づくり」に取り組んできた。全国学力調査の結果をみると、表現力・思考力は伸びているが、基礎基本の徹底が課題であり、庄内教育事務所の指導を得ながら課題の克服に挑戦している。
・スクリーンタイム（ゲームやテレビ等の時間を守る取り組み）の啓蒙で、児童の意識は高まりつつあるが、保護者の評価からみるとまだ改善が必要である。
・特別な配慮を必要とする児童への指導では、学校、町学校支援員、保護者の連携を取りながら支援にあたっている。
・保護者や地域との情報の共有を図りながら連携をさらに深めていきたい。

・学力向上を図る指導の工夫としてＩＣＴ機器を活用した授業づくりが進んでいる。今年度は、欠席児童（新型コロナで）向けのオンラインによる授業提供体制が充実した。
・外国語活動もＡＬＴの活用や東郷小との交流など活発に行われている。
・読書活動の推進に向けた取り組み、百人一首大会など、今年度、学年ごとに実施することができた。
・児童教育相談週間や保護者教育相談日が有効に機能している。丁寧な対応をめざして、よりいじめや不登校のない学校にしていきたい。
・思いやりの心を育てる児童会活動では、押切フェスティバル、スマイルタイム、空き缶やペットボトルキャップ回収に取り組み、思いやりの心やボランティア精神が育ってきている。
・日常的な食育の推進として、地域の方から有機米作りやカルガモを活用した稲作づくり、「６年生弁当の日」「図書コラボ給食」などを通し、今後もバランスのよい食生活について啓蒙していきたい。

（学校評価アンケートの結果から）
・自分の考えをはっきりと話し、伝えることができるかの項目の数値が高くなったことは、授業での取り組みの表れとしてとらえることにつながる。
・先生や友だちの話をしっかり聞くことの数値が昨年に比べ下がった。「話しの聞き方みかわ」を改めて指導していきたい。
・家庭で本を読む姿が減少したようだ。コロナ禍で、図書の貸し出しの制限が影響したことも考えられる。
・めあてを持って運動に取り組むことができたかの項目は数値が高くなった。学校での呼びかけもいきた。
・ゲームをする時間３０分を守れているかの項目では、子どもは守っている意識があり、親から見ると守れていないという違いが見られる。
・自分から進んで、清掃や係仕事に取り組んでいるが、家でのお手伝いについても、学校での姿と家での姿に違いがある。
・学校に関わる保護者の評価は、前年度より高い数値になって安心している。

（今後の方向性について）
・新型コロナウイルス感染対策を行いながら、学校行事や学習で、児童の活躍の場を確保していきたいと考えている。特に、授業では「主体的、対話的で、深い学び」をめざし、話し合いや協働的な学びを大切にしていきます。
・授業づくりのために、山形大学の森田智幸教授から指導を受け、「学ぶ喜びを実感できる授業づくり」に挑戦していく。
・授業づくりの取り組みに力を入れながら、「魅力ある学校づくり」に努め、さらに、「学校が楽しい」と思える子が増えるようにしていく。
・子どもたちのより良い成長を目指し、一層、地域と連携しながら進めて行きます。
・家庭や地域の声を真摯に受け止め、丁寧な対応を心がけ、信頼される学校の創造に努める。
（その他）
〇ＰＴＡに寄せられた通学路の危険箇所にかかわる要望について、県や町の回答状況一覧をみて確認した。

（委員の方からの質問や意見）
〇英語教育に関わり、以前、オーストラリアとのリモート交流を実施していたが現在もやっているのか？

⇒現在はやっていない。新型コロナの影響等によるロックダウンがあったりして途絶えている。そのため、東郷小と英語での交流に変わった。姉妹都市マクビンとの交流はある。
〇コロナ禍で地域活動も中止せざるを得ない状況にあったが、学校で特に地域へ要望したということはあったのか、また、今後においてはどうか。
⇒地域でのキャンプなど、特に学校からどうとは伝えていない。感染対策については地域の方々も配慮して事業を計画すると思う。
〇５類に位置づけられ、開催を地域に委ねられても判断に困る。マスク着用などの今後は？
⇒地域行事が全てなくなることは子どもにとっても寂しい。感染対策が十分であれば開催の方向にあるのが現状のようだ。マスク着用で決まっていることは、卒業生については外してもよいと県から通達されてはいる。
〇３月１３日からマスク着用の判断は個人にまかされるようだが学校としてどう考えているか。
⇒教育委員会より指示があると思うのでその指示に従っていきたい。校長としては、やはり集団生活の場であり、感染予防をとっていくが、体育館や外などリスクが減る場では外すことがあってもよいと考えている。
〇学校給食において、食材の高騰の影響は？国や行政の支援は？
⇒給食に関わる運営会議で一食１５円の値上げが提示された。保護者からは反対の声もあったが、現状ではやむを得ないことと受け止め保護者に伝えた。今年度分は国の支援があったが、来年度はなく値上げとなった。燃料費は行政の負担で食材分の値上げとなった。
〇学校評価のアンケートを毎年このように実施し、まとめていることに驚いた。
〇学力低下の原因に視力の問題が関わるようだが対応は？
⇒視力については、健康診断で再検査や精密検査のすすめを養護教諭が出して対応している。今年度課題としてあげられたことが、「歯の磨き残し」が多いことで、コロナ禍の飛沫の関係で指導が十分にできなかったこともあったと考えられる。
〇不登校（年間３０日の欠席）はいないか？
⇒現在はいない。
〇リモート授業の実施について
⇒現在は、６台の機器もそろい全学年で可能である

【　三 川 中 学 校 学 校 運 営 協 議 会　】
◇学校運営の反省と次年度の構想について
（　橘　正敏　校長　）

（近況）
・３年生は、自分の進路に向けて頑張っている。進路決定の生徒も、次年度からの高校生活に向けた生活設計や公立高校受験者に向けたサポートを行っている。
・２年生は、３年生からバトンを受け継ぎ今後を背負う意識づけや高校受験に向けたテキスト学習もスタートしている。
・１年生は、新入生説明会で、自分が経験した中学校入学時の不安に思ったことについて説明をしたり、部活動の説明をしたりした。また、小学校の児童とオンラインでつないで交流を図ろうとしている。先日来校した小学校の先生も、１年間での成長に感心をしていた。

（学校運営の反省と次年度に向けた方向性について）
・安全安心を第一に考え、生徒の学びの保障、生きる力の育成に向けた教育活動の実践に取り組んできた。「三大行事」も予定通り進めることができ子どもの思い出につながった。特に、３

年生の修学旅行では、１０月に変更し、実施前後で抗原検査を行い新型コロナへの対策をとりながら、東京への修学旅行ができいい思い出となった。
- いじめ、不登校等への対応については、適応支援委員会による情報共有をもとに、組織的に対応することができた。いじめ件数は、前期１７件（小学校からの継続を含め）あり指導し未解決はなくなった。後期の調査では、８件の確認があり指導と解決に向けて取り組んでいる。不登校生徒（年間３０日以上の欠席）は８人（内特別支援生徒４名）と少し多い。９０日以上の生徒も５名いる。サポート体制はしっかりしているので今後に期待している。
- 学校運営協議会との連携し、外部の人材活用に取り組むことができた。１年生においては、地域巡りとして神社等の見学学習の実施。３年生実力テストを休日に実施（授業時間確保のため）したが卒業生２名からテスト監督についてもらった。新人戦のテスト監督に地域の助けがあることは、学校規模（学校に残る職員の不足）から大変ありがたかった。１年生の家庭科の実習で防災リュックの製作に地域の方から支援していただき助かった。
- 学校だより現在２７号。ホームページにも掲載。安全安心メールを活用しての情報提供をした。
- テスト前の学習会も教科の補足指導として、生徒自らが職員のいるところへ出向いて聞く取り組みをした。回を重ねるごとに人数も増え、進んで学ぶ意識づくりにつながった。
- 次年度もより地域との連携協働のあり方をめざして、２年生の職場体験リストづくり人材の紹介、芸術鑑賞教室にあたってのリストづくりなどを協力していただければよい。
- 重点施策の高い同僚性を元に、学び合い、研鑽し合う教職員集団をめざすことについては、魅力ある学校づくりの取り組みや校内授業研究会の取り組みにより、教職員一人ひとりの良さが学年経営に活かされ、学校運営への積極的な参画につながった。
- 教育活動の実施にあたり、生徒の思いに寄り添う指導、生徒の成長を支援しようとする教職員が増えており、生徒との信頼関係も向上している。
- 働き方改革については、地域の人材活用や部活動の地域移行などで協力していただき感謝している。
- 「魅力ある学校づくり」の推進については、アンケート結果から、学校が楽しい（９３％）みんなで何かするのは楽しい（９８％）授業に主体的に取り組んでいる（９０％）授業がよくわかる（８０％）自分にはよいところがある（７７％）先生はあなたのよいところを認めてくれる（９２％）と学年差はあるが成果をあげている。チーム学校プランを作成し、ＰＤＣＡサイクルをまわしながら取り組むことができた結果と評価している。
- 生徒にとって学びがいのある授業をつくることでは、「授業に主体的に取り組んでいる」と高い数値示しているので、さらに、「授業がよくわかる」と実感できるよう授業づくりを充実させる必要がある。
- ＩＣＴ機器の活用で生徒の力を最大限に引き出す努力は今後も実践していきたいが、ＩＣＴ機器の不足が課題となっている。
- キャリア教育に向けた取り組みがまだ必要と考える職員もおり、一層、キャリア教育の充実に取り組んでいきたい。
- 「寛容・共生・貢献」の心を育む教育活動の推進については、「なかよし三原則」の決議や昼の放送を活用した４つの詩の朗読による「いじめ防止」の取り組みなど、生徒主体によるよい取り組みがみられた。ボランティアサークル「来夢来人」の活動や三川の四季を紙粘土細工にし、さらに和菓子で商品化し販売する活動を通して、地域を盛り上げることができた。
- 生徒による自治活動をさらに盛んにし、自主自律の心を育んでいきたい。制服の改正やきまりの見直しを通し、より良い社会を築こうとする資質の向上をめざしたい。

（その他）
- 学校評価の生徒・保護者アンケート結果の提示。
- 制服改正にかかわる進捗状況の説明。

（委員の方からの質問や意見）

〇子どもの「自尊感情」を育てることは、親が子どもへどのように対応しているかでも大きく影響する。例えば、「安定した仕事」といっても、今の子どもと親との差は大きいので理解させ

ようとしても大変。地域的な課題であれば、地域での検討が必要。
⇒親を対象にした研修会などで話題にすることもよい。ここで取り上げている「自尊感情」は学校生活において「先生はあなたを認めてくれているか」などであり、ここ３年間をみると今年の３年生は数値的に下がった。コロナ禍で会話の制限等もあったからとも考えられる。また、アンケート項目が「自分にはよいところがある」等の質問であり控えめな回答になる。
〇「自尊感情」のアンケートではなかなかはかれない面もある。
⇒学校生活では、なかなかいい意見をもっているのに、議論することを好まない生徒もいる。自分のよさに気づいていないということもある。そこに気づかせたい。
〇ＰＴＡ組織がありながら学校運営協議会の委員として果たす役割はこれでよいのかと感じることもある。最初の説明でとても責任重大な立場になったと感じたりしたのも事実である。今後も学校と地域をつなぐ役割を果たしていきたい。